

自分の考えや思いを英語で伝え合うことに喜びを感じる児童生徒の育成をめざして

越ヶ浜中の
英語の取組

今年度は「小中高連携英語教育推進校」の指定を受けていることもあり、ホームページ上では、地域や保護者の皆様だけでなく外部の教育関係者向けとしても取組内容を発信しています。

小中合同による英語の授業

この日の5校時は、中学1年生が小学校に移動し、6年児童と合同の英語を行いました。本校の英語科教員が昨年度から小学校で乗入れ授業をしていることが、こうした自然な流れにつながってきたものと言えます。そして、この小中一貫英語教育は、今年度の本校の特色や強みの一つにもなっています。

この日のスモールトークのトピックは「好きな有名人を友達に伝えよう」というものでした。小中の複数の教員が様子を見に来たため、子どもたちは多少緊張の面持ちでしたが、中学生が会話をリードし、6年の児童たちも終始安心して活動に取り組むことができたようです。

ところで、授業を合同で行うためには、事前の打合せや進度の調整など、日頃の準備+αの一手間がかかります。また、小学生と中学生で知識量や英語学習の経験値に差があるため、テーマ設定や指導内容にも縛りが生じてしまうという負の側面もあります。しかし、実際に授業を行ってみると双方がよい刺激を受け、知識量の差が子どもたちのコミュニケーションの意欲を減退させることはほとんどなく、むしろ互いへの関心を高める方向に作用することの方が多いと思います。本校のような小規模校にとっては、「多様な相手との交流ができる」というメリットは、他では替えが効かない価値が高い項目です。メリット・デメリットの両者を比較するとき、価値の高いメリットの項目に比重を置いてみるという教員の意識スタンスが、小中連携を実践に移していくためには重要なことだと改めて感じました。

小中合同英語のメリット

- 普段と異なる多様な相手と交流できる。双方にとってよい刺激になる。
- 中学生の成長した姿を小学校の先生や入学してくる後輩に見てもらえる。(ゴールイメージも共有しやすい。)



小中合同英語のデメリット

- 事前準備や打合せの手間がかかる。
- 知識量が異なる生徒集団での指導となる。
- 移動時間というロスが生じる。

今年度から正式に小中一貫教育校となった本校と越ヶ浜小学校。1小1中の小中一貫教育校がランドをはさんで対面しているという立地的な好条件は、移動時間のロスというデメリットを最小限にしてくれることから、こうした合同の取組は今後も増えていくかもしれません。また、彼らは来年度から同じ校舎でともに学び合う仲間でもあります。今回のような取組が、中学校で実施している異学年モジュール英会話へも違和感なく入っていけることにつながるのではないかと期待されます。

授 業 の 様 子



この1年間で英語力を伸ばした中1生徒が会話を引っ張ります。

小学校でお世話になった先生方も様子を見に来ていただきました。卒業した子どもたちの成長の様子を授業で見てもらえることも、小中連携の大きなメリットですね！

小学生の授業後の感想

- 中学生が英語をスラスラ言えてすごいと思った。
- 英語はとても難しいけど、中学生がいるのでとても話しやすかった。
- 話がなくなったら、いろいろなところからテーマをとっていたのですごいと思った。
- 分からなくなったら教えてくれたのでうれしかった。
- 質問やリアクションをたくさんしていてすごいと思った。